

平成 29 年度 第 1 回 石狩市子ども・子育て会議 議事録

日時 平成 29 年 7 月 19 日 (水) 16 時 00 分～17 時 10 分

場所 市役所 2 階 201 会議室

議事次第

- (1) 開会
- (2) 人口推計結果について
- (3) 量の見込み(案)について
- (4) 石狩仲よし保育園認可申請について
- (5) その他
- (6) 事務連絡(次回日程など)
- (7) 閉会

出席者

委員

近藤 宏	○	青木 貞康	○	伊藤 美由紀	○
佐藤 秀人	○	城地 洋実	○	坪田 清美	○
宮田 あゆみ	○	小山内 哲也	○	森田 明	○
河岸 由里子	○	岩尾 美映	○	納谷 真智子	○

事務局

保健福祉部	部長 三国義達
保健福祉部子ども政策課	課長 伊藤学志、主査 青木宏美
保健福祉部こども家庭課	課長 櫛引勝己、主査 大西泰斗

傍聴者 0 名

【1 開会】

○事務局（伊藤課長）

定刻となりました。みなさま本日はお忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。本日は、今年度第1回目の会議です。今年度は、「子ども・子育て支援事業計画」という、いわゆる教育と保育の供給量を位置付けた計画ですが、この計画の中間年になりますことから、この事業計画の一部を見直しするということを考えております。今日はその検討のための1回目ということで、資料となる児童推計等を案として提示しますので、みなさまのご意見をいただければと考えてございます。

それでは、開催に先立ちまして、保健福祉部長の三国より一言ご挨拶申し上げます。

○事務局（三国部長）

こんにちは。みなさま方に置かれましては、石狩市の子育ち子育て支援に様々な形でご尽力いただいております。先ほど、担当課長から申し上げた通り、市の供給量をどうするか、というのがこの会議の重要な柱ということであります。

今年度、定員を179名増という大幅増でスタートしたところですが、なかなかうまくいかないもので、例えば1歳児は汲々としているという状況であります。これまでもそういった部分はありましたが、各園のご協力をいただいて、なんとか石狩市民が子育ち子育てできるような形がとられてきました。今後においても、「子どもを育てる」というのはまちの最重要課題ととらまえて、市としても全力を挙げて参りたいと思っております。本日は状況説明が大半となりますが、それをふまえたご意見ご提言をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（伊藤課長）

会議資料について確認させていただきます。①議事次第、②資料1「事業量の見込みと確保方策」、③参考「平成29年度北海道における保育所及び認定こども園の認可・認定スケジュール」以上の3点を配布させていただきます。

本日の会議につきましては、おおむね1時間程度を予定しておりますので、最後までよろしく願いいたします。

本日の出席状況ですが、本日は委員12名中、12名全員の出席をいただいておりますので、石狩市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定により、本会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。私立幼稚園振興会より選出の委員が、本吉委員から小山内委員に変更になっておりますのでご紹介いたします。

それではこれより、会議の進行を近藤会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【2 人口推計結果について】

○近藤会長

それでは、協議に入ります。冒頭、三国部長からもお話があったように、本日の内容は、主にデータの説明や情報提供が主になるかと思えます。概ね1時間程度を予定しておりますのでよろしく願いいたします。それでは、さっそく人口推計結果について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（青木主査）

私の方からご説明させていただきます。一部重複した説明になりますが、ご了承ください。「石狩市子ども・子育て支援事業計画」の計画期間が平成 27 年から 31 年なのですが、今年が中間年であることから、国の指針に基づき、計画の見直しを行います。なお、計画策定時からの状況変化を反映させるための改定であり、計画体系など主要な部分の変更は行いません。

見直しのポイントとしては、2 点あります。1 点目は、児童数推計の見直しです。平成 27 から 29 年度の人口実績を踏まえ、平成 30 年度、31 年度の人口を再推計します。2 点目として、人口推計の見直しに伴う、平成 30 年度、31 年度の事業量の見込みと供給量の見直しを行います。

具体的には、計画書の「第 4 章 事業量の見込みと確保方策」のうち、「4-2 子どもの人口の見通し」「4-4 事業量見込みと確保方策（教育・保育給付対象事業）」「4-5 事業量見込みと確保方策（地域子ども・子育て支援事業）」です。

今回の会議では、「4-2 人口の見通し」と「4-4 事業量見込みと確保方策（教育・保育給付対象事業）」の見直し案を提示させていただき、11 月頃を予定しています次回会議において、「4-5 事業量見込みと確保方策（地域子ども・子育て支援事業）」の見直し案を提示させていただく予定です。

さっそく、人口推計の見直しですが、資料 1 の 1 ページ目をご確認ください。表の見方としましては、上段が石狩市全体、下段が旧石狩市、2 ページ目の上段が厚田地区、下段が浜益地区で、それぞれ記載しています。

左側が現計画の数値で、平成 26 年度は実績値、平成 27～31 年度は推計値が入っています。右側が、見直しの数値で、平成 27～29 年度については、各 4 月 1 日現在の実績値を入力しています。この平成 27～29 年度の人口実績をもとに、平成 30～31 年度の再推計を行いました。

推計の方法としては、基本的には、計画策定時と同様の手法（コーホート変化率法）で算出しています。0 歳児については、25～39 歳の女性人口と、0 歳児人口から率を割り出し、各年の女性人口に掛け合わせて算出しています。特に南線小学校区の 25～39 歳の女性人口が増えていたため、平成 30 年度の 0 歳児が増える結果になっています。石狩市全体の子どもの数としては、若干減少していく見込みになっています。資料の説明については以上です。

○近藤会長

只今、事務局より説明がございました。平成 29 年度までは実績値、平成 30～31 年度については推計値ということですが、これらについて何かご意見等ありましたら発言願います。

○河岸委員

市の人口増加傾向として、南線小学校区の例がありましたが、今後については、開発の可能性の高い地域はあるのでしょうか。

○事務局（三国部長）

旧樽川町内会というエリアは、宅地販売されたところがいっきに売れて、平均年齢が 30 代前半なのではないかといわれているところです。このエリアについては、しばらくの間、就学前、小学、中学と増加傾向で推移すると思いますが、宅地の販売は一区切りしたので、拡大というのは今のとこ

る想定されていません。

○河岸委員

他の地域では無いですか。

○事務局（三国部長）

他の地域についても、今はあまり想定されていません。花川東地区は、アパートができるなど若干増えており、花川北地区についても、今までは子世帯が親元に戻って二世帯で住むという想定をしていたのですが、最近は、完全に転売されて新しく若い世帯だけが転入してくる、というのも見受けられます。しかし、大きく人口が伸びるという想定はしていません。

○河岸委員

今後の増加傾向としては、この推計でいたい賄えるという見通しですか。

○事務局（三国部長）

これは単なる人口動態で、課題の一つに社会動態があります。それから、就業に対する考え方も影響すると思います。今までもそうですが、保育園や幼稚園の枠を拡大すればするだけ、需要を呼び込んでいるという状況があります。ただ、これまでの流れを大きく変えるような要因は今のところ想定していないということです。

○森田委員

子どもの数の増加という点で言うと、石狩市の子ども会としておさえている子どもの数は 4,000 人近く、全道で子ども会に会員登録している市町村の中では、室蘭市、岩見沢市に次いで 3 番目に多くなっています。特に、緑苑台地区は 700 人近く、樽川地区も 300 人程会員が増えていますが、市全体としてみると、大幅に増えているということはありません。

一つ質問ですが、例えば、保育園一体型のデイサービスや小規模保育園については、石狩市ではどういう状況にあるのでしょうか。というのも、手稲山方面や藻岩山方面で増えているように見受けられ、樽川地区の子ども達も、親の職場の関係からか、札幌方面に動いている気配があります。“放課後難民”という事態の解消、そうなる前の対応というのは子ども会としても大事になっていきます。市として状況をどう押さえているのか。また、対応について教えてほしいと思います。

○事務局（三国部長）

確認ですが、一つは、小規模保育の状況。もう一つのデイサービスというのは、障がい児の放課後デイの関係ということでよろしいでしょうか。最後は放課後児童対策の全体ということですね。

○森田委員

はい。わかる範囲で結構です。

○事務局（櫛引課長）

2年前の4月に始まった子ども・子育て支援新制度ですが、これは特に東京近郊の大都市になると、0・1・2歳のお子さんの預け先がないということで始まった制度です。石狩市では、この新制度が始まった当初から、たんぼぼ保育園が小規模保育事業ということで、0・1・2歳児を対象に定員19名の保育を実施してきたところですが、しかし、問題点として、2歳から3歳になる時に、どこに行けばいいのか、という繋ぎの面での問題が出てきます。市としては、転園を希望する際は点数を高くして、最優先で保育所や幼稚園に入りやすいよう配慮してきたところですが、お子さんにとって、施設が変わるということは大きな影響を与えるということを考えますと、石狩市としては、国が進めている認定こども園を進め、0歳から就学前まで、親の就労に関わらず同じ施設でお子さんをお預かりできる環境を目指しています。現在は、この4月からたんぼぼ保育園が認定こども園になったことで、小規模保育事業については、ゼロとなっております。

○事務局（三国部長）

私の方から、残りの点についてご説明申し上げます。森田委員がおっしゃっていたのは、就学児童の放課後の居場所のことだと思います。

放課後デイサービス、いわゆる障がい児のサービス形態に関してですが、札幌の北側から手稲、石狩にかけて、相当数の施設が存在しています。背景として、障がい児施策の拠点となる様な特別支援学校等も、札幌の北側に非常に集中しており、石狩にも星置養護学校の分教室があるなど、ある程度の体制ができていているということから、波及的に放課後児童デイが呼び込まれている状況なのではないかと思っています。実際に、発達障がい児を専門にしているところもあれば、重度身体障がいのお子さんを対象としているところもあります。需要も少ないので、石狩市民だけではなく、半数が札幌市から来られているという状況で、放課後デイについては、「札幌北エリア」として考えるべきなのではと認識しております。

それ以外のお子さんの場合ですが、保育園や幼稚園については、ある程度充足してきていますが、これだけ拡大した保育園や幼稚園のお子さんがいっきに就学しますと、その流れで放課後児童クラブを求めるという流れはしばらく続くのではないかと思っています。

ただ、学校区や年齢に応じて、放課後児童クラブをを求める状況が一様ではないというのが非常に難しいところです。例えば、夏休みになるといっきに増える一時利用の需要に対応できるのかどうか、といった問題もあり、みなさんの関心は放課後児童クラブに移りつつあるというのが今の状況です。

また、今年度から、子ども食堂などの「子どもの居場所」を、地域の方々と共に、色々な形で展開していただいています。こういったことも、子どもに関するネットワーク作りには一躍を担ってくるのではないかと考えています。

私からは以上です。

○森田委員

高齢者のデイサービスと保育園が一体となった施設は石狩市にはありますか。

○事務局（三国部長）

共生型といわれているものですね。今回の介護保険法の改正でも目玉になっていますし、既に富山県では行われていますが、今までの福祉施策としては、同じ境遇の方々、例えば、高齢者、知的障がい者、精神障がい者といった集め方で、それぞれの福祉サービスを行ってきたところですが、地域社会はそうではなくて、様々な方がいて相互に成り立っているということから、共生型サービスというのができています。

森田委員がおっしゃるような子どもと高齢者が関わる取り組みは、坪田委員のえるむの森認定子ども園でも実践されていますが、子どもにとっても高齢者にとってもプラスの影響があり、一説によると、子どもとの関わりについては、精神障がい者にとって一番効果があるとも言われています。我々としても推奨していきたいと思っていますが、様々な形で、共生型に近い展開をしていきたいと考えている事業者も出てきています。今後の方向性としては、どんどん広がっていくと思います。

○伊藤委員

子ども・コムステーション・いしかりでは、市内の児童館の指定管理をいただいていますので、今の状況を少しお話したいと思います。

子ども未来館は7年目となりました。最初はなかなかうまくいかなかったこともありますが、今はとてもいい場所になっていると思います。というのも、中学生の利用がとても増えているということが、実際の数字として出ております。夏休みについては、樽川地区や花川南地区からも、自転車で来ている状況で、中学生の放課後の居場所が無いといわれている中、とてもいい場所になっているのではないかと思います。

花川南児童館も、昼休みを無くして利用を促しています。通常はクラブを使っている子も、土曜日は利用の形を変えて、お弁当を持って児童館を利用しているという子もいます。おおぞら、花川北についても、自由来館で利用するという“居場所”にしっかりなってきたのかなと思います。

運営している中で、やはり樽川中や花川南中の子ども達が、放課後は遠すぎて来れないし、夏休みは利用が集中して混んでしまうという状況で、そういう子ども達の居場所が必要なのかなと思います。

○近藤会長

ありがとうございました。

只今、人口推計の結果ということでご意見いただきましたが、次の案件の「事業量の見込みと確保方策」とも密接に関連してきますので、次の説明の後、再度ご意見を伺いたいと思います。

では、事務局より説明をお願いいたします。

【3 量の見込み（案）について】

○事務局（青木主査）

資料1の3ページからご覧ください。3ページと4ページが石狩地区、5ページと6ページが厚田地区、7ページと8ページが浜益地区、9ページと10ページが市内全体です。

まず、3ページからご確認ください。左側が計画書に記載されている数値、右側が実績ということで、①に「量の見込み」を「実績」に直して入力しています。上の方に記載のとおり、1号は、

各年5月1日現在の数値、2号、3号は4月1日現在の数値を計上しています。②は確保の内容ということで、利用定員を記載しています。例えば平成27年度ですが、左側の計画では、1号の利用見込みは723人で、それに対する確保の内容としては、690人分で、33人分足りない状況でした。2号については、492人の利用見込みのところ、認可外を含めて413人の定員で、79人分のマイナスという見方をします。なお、平成27・28年度の需要超過について、計画策定時は、利用定員の弾力運用などでの対応を見込んでいたところです。この計画に対し、右側の実績です。1号は、利用定員690人のところに、718人の利用実績、2号については470人の利用定員のところに、499名の利用実績という見方をします。

次の4ページには、先ほどの人口推計をもとに、平成30年度と31年度の見込みを再計算しています。推計方法については、国の通知に基づき、平成29年4月1日現在の子ども人口における利用割合を算出し、推計人口に掛け合わせました。例えば、旧石狩地区であれば、平成29年4月1日現在の3～5歳児が1,291人、その内、1号認定が824人、割合で言うと、0.64という実績があります。この割合を、平成30年の推計人口(1,269人)に掛け合わせて、量の見込みは810人という計算をしています。平成30年度でいうと、1号がマイナス40となっていますが、トータルとして116の余裕がありますので、弾力運用で対応していければと考えています。

同様の考え方で、5ページ、6ページに厚田地区、7ページ、8ページに浜益地区、9ページ、10ページに市内全体を記載しています。資料の説明は以上です。

○近藤会長

はい。では、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

○河岸委員

平成31年度においても、1号に関してはマイナスが出ている状況で、相対的に、他の部分で賄える根拠みたいなものはありますか。

○近藤会長

確保の内容と量の見込みのバランスということですね。先ほどの説明では、利用定員の弾力運用で、ということでしたが、考え方として補足説明はありますか。

○事務局(大西主査)

1号は幼稚園の利用定員ということですが、市内の幼稚園につきましては、認可定員よりも利用定員を下げた実際の運営を行っています。認可定員にはまだ余裕がありますので、この中で、状況に応じて利用定員を上げるなど、需要を消化できるのではと考えています。

ただ、今後、道とも相談していきますが、計画上マイナスが出るのはマズイということであれば適宜調整させていただき、その結果につきましては、会議でご報告させていただきたいと思いますが、現実としては、認可定員と利用定員の間には余裕があるということで押さえていただければよろしいかと思っております。

○河岸委員

平成 29 年度の実績として、マイナス 54 になっていますが、定員は別として、全員入れているということですか。

○事務局（大西主査）

はい。実績では 824 人が幼稚園を利用しているということになっていますので、みなさんどこかの幼稚園には入っていらっしゃるということです。

○近藤会長

説明がありましたように、施設としては大きな器を持っていながらも、利用定員を少なく設定しているという園が実際にありますので、状況に応じてうまく運営していけるのかなと思います。いずれにしても、今後の話に関しては、また来年度の利用定員の話で、この会議にかけていくことになると思いますので、その際にご議論いただければと思います。

その他にございますか。無ければ、続きまして「石狩仲よし保育園の認可申請」ということで、事務局よりお願いいたします。

【4 石狩仲よし保育園認可申請について】

○事務局（大西主査）

まず、参考資料としてお配りしている「平成 29 年度北海道における保育所及び認定こども園の認可・認定スケジュール」をご覧ください。今年度、石狩仲よし保育園が、施設整備の上、幼保連携型認定こども園へ移行することを計画しております。資料のスケジュールの中で、「1 保育所・幼保連携型認定こども園の認可」に記載の流れで、北海道の認可を受けて、平成 30 年 4 月からの開園を目指しているところです。今年度から、石狩振興局へ申請書を提出する前に、「市町村において子ども・子育て会議を開催しておくこと」ということが記載されておりまして、今回このタイミングでご説明申し上げているところです。

只今、資料 2 をお配りしましたが、現段階での計画を記載しています。正式な認可申請前ですので、会議終了後に回収させていただきたいと考えていますのでご了承いただきたいと思います。基本的には、既存の認可保育所から幼保連携型認定こども園へ移行するという事になっておりまして、上から、移行前、移行後、認可定員の増減を記載しています。現状として、市に相談が来ているのは、石狩仲よし保育園 1 件です。この石狩仲よし保育園ですが、施設整備については、同一敷地内に新しい園舎を建築しますことから、所在地については、今の場所と変わらない計画です。開所予定日については、平成 30 年 4 月 1 日。設置法人については、社会福祉法人同友福社会となっています。説明は以上ですので、ご確認よろしくお願いいたします。

○近藤会長

ただいま、石狩仲よし保育園の認可申請についてということで、北海道の認可認定スケジュールと合わせて説明がありました、この件に関しまして、ご意見等ございましたらお願いいたします。現在、工事は、着工中ということですか。

○事務局（大西主査）

着工はまだです。設計会社が決まったところで、これから工事の入札と聞いております。

○近藤会長

ちなみに、先ほどの「量の見込み」の平成30年度・31年度にはこの分は入っているのでしょうか。

○事務局（青木主査）

計画には、この分は計上していません。

○近藤会長

他にご意見ございませんか。

無ければ、石狩市子ども・子育て会議では協議をしたということで、この認可スケジュールに沿って進めていただくということで、よろしいでしょうか。なお、これはあくまでも施設の認可定員の話で、利用定員とは異なる話ですので、認可が降りた段階で、平成30年度の利用定員については、この会議でご議論いただきたいと思います。

○近藤会長

それでは、本日予定していた議案については、これで終了でございます。

その他に、みなさんからご意見等がありますでしょうか。

【5 その他】

○森田委員

お願いしたいことがあります。石狩市は、認定こども園や学童保育が整備され、幼児期から小学生まで、子ども達がスムーズに教育を得られる環境やシステムが整っているように感じます。子ども会でも、認定こども園の周辺をパトロールするなどの対応をしていますが、子ども達の感性を育むには、園庭だけではなく、園の側にある公園が大事な要素になっていると思います。夏休みや冬休みなどを含め、一年を通して、子ども達が非常に長い時間、利用する可能性のある場所がたくさんあります。小学校や幼稚園、保育園の周りの環境整備を、一年を通して、毎日の様に整備していただきたいと思います。札幌市からも、バスを使うなどして石狩市の公園に来ています。そういう、感性を育てる環境を本当に大事にしていきたいと思います。約30年前の子ども達は、そういう時代に上手に生まれ、学力が高いです。今の大学1年生や2年生くらいの世代も、学力が回復してきていると思います。認定こども園が増えたので、あえて言いますが、園の周りの公園を学習の場としても環境整備していただきたいと強く思います。花川北地区だけで考えても、公園の環境がよく整備されている時の子ども達は、大きくなっても活躍していると思います。そういうことで、よろしくをお願いします。

○近藤会長

ご要望ということですね。その他にございますか。

○岩尾委員

前回の会議に引き続き、人材の確保という点ですが、資格を持ちながらも、なかなか働けないというお母さん達の声聞くことができました。要望としては、「短い時間なら働ける」「自分の子どもも育てたいので、仕事との両立を事業所側にもっと確保してもらいたい」「いきなり教室の担当を任せるのではなく、サブ的な要素で働くことが出来れば、働きやすいのではないか」という声を聞いてきました。今は、高齢の保育士さんもお見受けしますが、こういう小さな声をどんどん拾い上げて、もっと働く人の選択肢が増えるような雇用管理をしていけば、人材を確保するのに良いのかなと感じました。以上です。

○坪田委員

今もやっているんですが、人材がないんですよ。マッチングがうまくいかないんですよ。

○近藤会長

市でやっている人材バンクはどうなんでしょうか。

○坪田委員

少ししかいないようですが、うちは1人ご紹介してもらいました。

○岩尾委員

あとは、資格をもっているお母さんが一人いると、他にもこういう人がいるんだよ、と仲間と繋がっている場合もありますので、なんとかそういった情報を拾っていただくと良いと思います。

○近藤会長

坪田委員も苦勞されていると思いますが、私も同じで、石狩市だと、求人広告を石狩市内にほぼ全戸配布しても、反応が無い状況です。

○岩尾委員

ファミリーサポートセンターの宮田委員の方ではそういった情報は無いのでしょうか。

○宮田委員

私達も、ぽけっとママのメンバーが欲しくて、ファミサポメンバーにアタックしているような状況です。

○坪田委員

みんな苦勞しているということですよ。人がいれば、もう少し子どもも受け入れられるというところなんですけれども、なかなか難しいです。

○岩尾委員

うちは、時給がいくらで、2時間や3時間でもいいですよ、といった簡単な募集というのはでき

ないのでしょうか。

○坪田委員

上手くシフトをずらせれば、3時間や4時間でもいいのですが、ただやっぱり、午前中だけ働けるという若いお母さん方は多いのですが、午後の部分が足りない状況です。情報は欲しいと思います。

○岩尾委員

今、シルバー人材センターでも、家事代行や買い物代行など、元気な高齢者の方々に活動していただいているようですが、育児もあったと思うので、午後だけでも手伝ってもらえないのでしょうか。とにかく、人材不足を解消しないと、子どもだけ集まってもどうしようもないことなので。

○坪田委員

新卒でも、学校に募集をしても、なかなかいない状況です。東京だと、初任給20数万円で、更に寮を用意しているところもあったりするので、そちらに行ってしまう人材も多いです。なかなか石狩には来ないです。

○近藤会長

今回、情報をいただいたので、何か具体的な対策とかあればいいのですが。

○事務局（三国部長）

保育士については、人材バンクを作ってやっていますが、今は全業種が人手を求めています。特に福祉系は資格が必要なので、よりタイトになっています。介護の方は、まだ保育ほど単価が上がっていないので、そこを何とかしなければならないのだろうと思います。保育に関しては、私も何人か資格を持っている人を知っていますが、保育をやらずに、別な仕事をしてしまうんですね。本人の意思がそこに無いというケースもありますし、重労働で大変だというケースもあります。年配の方はヒザや腰がといった問題がどうしてもあるかなと思います。

先ほどのバンクもそうですが、出来る限り繋いでいきたいと思いますので、そういった情報がありましたら、ぜひ子ども家庭課の方へ紹介していただければと思います。

○近藤会長

そういったお母さん方がいらっしゃいましたら、ぜひバンクに登録いただけるようお知らせしていただきたいと思います。

○城地委員

石狩市内に居住の方には、「市内の施設に就職した方は、〇〇が免除になる」など、何か特典がないと、石狩市内でその資格を活かそうとせず、市外に行ってしまうのではないかな、と思います。

○河岸委員

例えば、保育士の資格を取る方への援助などがあればいいのかなと思います。看護師の様に、何年間かは石狩市で働くというのを条件に奨学金制度を作るなどの方法もあると思います。

○坪田委員

国や道で、始めたはずです。休んでいた方が保育士を始めると 40 万貸してもらえます。2年間勤めたら返済が免除されるという制度です。

○事務局（櫛引課長）

今週、北海道から情報が流れてきましたので、今、各施設へ向けてメールが行ったか行っていないかのタイミングだと思います。

○河岸委員

では、これから増えてきそうな状況でしょうか。

○事務局（櫛引課長）

先ほど三国部長も申し上げたとおり、保育士は体力勝負の面もありますので。子育て、特に他人のお子さんを預かる訳ですから、実際に働いた経験のある方は、大変さはよくわかっているところだと思いますので、お金の面だけではないんだろうなと思います。

○事務局（三国部長）

今、河岸委員がおっしゃられた方策について、市として喫緊の課題となっているのは郡部の方です。他の自治体では、例えば、ひとり親世帯の有資格者に狙いを絞って、子育て環境や住まいを用意するといったやり方をしています。石狩としても、厚田区や浜益区では、同じ様な手法をしないと集められないな、と思っています。障がい者や高齢者を中心とした施設が多いので、人材が相当タイトになっています。

○伊藤委員

こども未来館では、大学卒の指導員も勤めています。やはり奨学金をもらっていたということで、うちの給料ではギリギリなのですが、職種としては希望の場所だということで、その気持ちだけで動いていてくれます。ですが、やはり返済がとても大変だということです。

学習支援事業の「マナビーバ」でも、大学生 6 名に来てもらっていますが、やはりきちんと時給をお支払いするというにしています。先生にお聞きしても、今の学生さんはボランティア精神だけでは動けないという状況が多いようです。最初はそんなに高い時給じゃなくてもいいのかなとも思ったのですが、助成金もいただいたので、やはりきちんと学生さんに払った方がいいなと思ってやっています。働く場所は、気持ちだけでは選べないと思います。こちらとしては渡す金額も限られているということで、どこから見直せばそれがうまく回るようになるのか、難しいところです。

放課後児童支援員制度が出来たので、先日、2年間しっかり働いた後に資格を取ってもらえればいいという気持ちで、無資格でもいいからと応募をかけました。その中で、特にひとり親家庭で育

った子は、資格を取りたくても上の学校に行けなかったんだな、という背景が見える機会がありまして、何か出来たらなと思うのですが、その何か、がわからなくて悩んでいるところでした。今は、支援員制度を上手く使いたいなと思っています。

○森田委員

質の問題もありますが、人材を確保するという面でだけお話しします。保育士や介護士など札幌に通勤している教え子達がたくさんいますので色々と聞いて見ますと、決して石狩市に魅力が無いとは言いません。石狩は、住宅があって親もいて、非常に良い環境にあるのですが、就職する側にとってみれば、札幌の魅力というのもあります。例えば、市内には総合学科がある石狩翔陽高校がありますが、子ども達が就職を目指すときに、企業は説明会をセッティングして子ども達を待っています。学力も体力も就職率も非常に高い富山県のある地域では、企業が高校に出向いてそういう活動をしています。ですから、市も大学や高校に出向いて行かないと、子ども達は地元に残らず、札幌に取られてしまいます。最近も、札幌や東京に就職していく子ども達を何人も見ました。そういう状況を見ていて感じるのは、給料の面や待遇の面もありますが、若者にとって札幌は魅力のあるまちだということです。グローバルではないにしろ、非常にいい人材が札幌に出て行ってしまっています。保健福祉部だけの問題ではないかもしれませんが、何らかの形で、学校への働きかけをして欲しいなと思います。

○事務局（三国部長）

実は、既に始まっています。どこの自治体もそうですが、特に技術系の職員が、復興やオリンピックなどで民間に取られてしまっています。ですので、道も市も大学を回って生徒に受験してもらえようアプローチしています。

たぶん、森田委員がおっしゃったような視点で、地域においても、今後ますますそういった方向に展開していくと思いますので、努力させていただきます。

○近藤会長

ありがとうございます。幼稚園、保育園、認定こども園における人材確保というのも重要な課題になっていますけれども、会議の中で貴重なご意見をいただきました。保健福祉部の方でも人材バンクを周知していただいて、委員の皆さんにおいても、周りにお声がけいただければと思います。

では、本日の議題に関しましては、ひととおり協議いただきましたので、最後に次回の日程を事務局よりお願いいたします。

【6 事務連絡】

○事務局（青木主査）

はい。次回につきましては、「地域子ども子育て支援事業」の事業量見込み等をお示しする予定とされています。時期は11月頃を予定しており、近くなりましたら日程調整させていただきますのでよろしく願いいたします。私からは以上になります。

【7 閉会】

○近藤会長

では、次回は11月ということで、第1回目の子ども・子育て会議を終了いたします。ご協議ありがとうございました。また次回以降につきましても、よろしくお願いいたします。

平成29年8月29日議事録確定

石狩市子ども・子育て会議

会長 近藤 宏